

3. 2017 年度活動概要

ライティング研究会では2017年度も引き続き、「思考を深めるライティング教育」をテーマに、メンバー各自が研究活動及び、このテーマをもとに授業を行っている。7月29日、2月10日、3月4日（予定）に名古屋外国語大学にて研究会を行った。7月29日には新しいメンバーとして後藤隆昭先生（静岡県立大学）、2月10日には柴田直哉先生（名古屋外国語大学）をお迎えし、さらに活発な意見交換がなされ、各自の活動や研究、授業実践について報告した。話し合いの内容は主に2点にまとめられる。まず始めに、「学生の書いたものを教師が修正する」ことについて意見交換をした。教員が学生の作品の **revision** を助けることは役に立つのか、という疑問に対し、日本人の学生においては、ライティングの初期段階での教師による **revision** は不可欠である。その後、どの段階までやり続けるべきかについては、研究していく必要がある、という意見にまとまった。次に「内容を重視する指導」について意見交換をした。次のような意見があった。学生自身が興味を持つ内容について書かせると、彼らの語彙が増える、コミュニケーションを意図したライティング活動は必要であるが、英語で何でも好きなことを書けば良いのではない、自分の伝えたいことを明確に表現するには、他人の書いたものを多く読むことが不可欠である、など授業を進める上で大変参考になり、且つ研究を進めていくうえでの貴重な意見・考え方を交換することができた。3月4日には「基礎に降りていく学びーライティングに焦点を絞って」という点に鑑みて、ライティングの応用的活動の中で、メンバーが属する組織の中で、また期待されている教育活動の中で何ができたか、また今後何ができるかについて意見交換をした。新しいメンバーを得て、新学期からはそれぞれの職場でできることを明確にして、将来的に研究会のシンポジウムを計画し、それを目指す研究計画をたて、実行し、その報告をしたいということを確認した。今後もライティング研究会では「思考を深めるライティング」研究は深めていく予定である。